

○皇學館大学研究倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、皇學館大学（以下「本学」という。）の学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的とし、研究者が研究活動において遵守すべき事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 「研究者」とは、本学の教職員及び本学において研究活動に従事するすべての者（大学院学生を含む。）をいう。
- (2) 「研究活動」とは、研究計画の立案から研究の準備・実施、結果の取りまとめ、報告・発表及び評価までのすべての行為や付随するすべての事項をいう。
- (3) 「不正」とは、研究活動のすべての場面における、捏造、改ざん、盗用などの不正行為及び研究費の不正使用などの非倫理的な行為をいう。

(研究者の基本的姿勢)

第3条 研究者は、生命の尊厳及び個人の尊厳を重んじ、基本的人権を尊重しなければならない。

- 2 研究者は、国際的に認められた規範、規約及び条約等、国内の法令、告示等及び本学の規程等を遵守しなければならない。
- 3 研究者は、他分野の研究も尊重するとともに、自己研鑽につとめなければならない。
- 4 研究者は、他の国、地域、組織等の研究活動における文化、習慣及び規律の理解に努めなければならない。
- 5 研究者は、研究を分担する者、共同で研究する者、それぞれの学問的立場を尊重しなければならない。
- 6 研究者は、研究に協力する者及び研究を支援する者に対して、謝意をもって接しなければならない。
- 7 研究者は、研究活動において、不正の実施や不正への加担をしてはならない。
- 8 研究者は、学生が共に研究活動に関わる時は、学生が不利益を蒙らないように十分な配慮をしなければならない。
- 9 研究者は、研究活動においてハラスメントの無い状態を確保しなければならない。

(資料、情報及びデータ等の収集)

第4条 研究者は、科学的かつ一般的に妥当な方法及び手段により、研究のための資料、情報及びデータ等を収集しなければならない。

- 2 研究者が、研究のために資料、情報及びデータ等を収集する場合は、その目的に適う必要な範囲において収集しなければならない。

(インフォームド・コンセント)

第5条 研究者が、人の行動、環境並びに心身等に関する個人情報及びデータ等の提供を受けて研究を行う場合は、提供者に対してその目的及び収集方法等について分かりやすく説明し、提供者の明確な同意を得なければならない。

- 2 組織又は団体等から、当該組織又は団体等に関する資料、情報及びデータ等の提供を受ける場合も前項に準ずるものとする。

(個人情報の保護)

第6条 研究者は、研究活動における個人情報については、学校法人皇學館個人情報保護規程に基づき、適正に取り扱わなければならない。

- 2 研究者は、人を対象とする研究を行う場合、皇學館大学「人を対象とする研究」倫理規程に従わなければならない。

(資料等の利用及び管理)

第7条 研究者は、研究のために収集又は生成した資料、情報及びデータ等の滅失、漏洩及び改ざん等

を防ぐために適切な措置を講じなければならない。

- 2 研究者は、研究のために収集又は生成した資料、情報及びデータ等を適切な期間保存しなければならない。ただし、関連する法令又は本学の関係規程に保存期間の定めのある場合は、それに従うものとする。

(機器、薬品等の安全管理)

第8条 研究者は、研究活動において機器や薬品等を利用する場合、関連する法令、関連する省庁や学会等の指針及び機器や薬品等の取扱要領等に従い、安全管理に努めなければならない。

- 2 研究活動後においても、前項と同様安全に処理しなければならない。

(研究成果の発表)

第9条 研究者は、研究の成果を広く社会に還元するため、原則として公表しなければならない。ただし、産業財産権等の取得及びその他合理的理由のため公表に制約のある場合は、その合理的期間内において公表しないものとするができる。

- 2 研究者は、他者の研究成果を自己の成果として発表してはならない。
- 3 研究者は、研究成果の発表に際しては、先行研究を精査し尊重するとともに、他者の知的財産を侵害してはならない。
- 4 研究成果の発表における以下の行為は、絶対にしてはならない。
 - (1) 捏造 (存在しないデータの作成)
 - (2) 改ざん (データの変造、偽造)
 - (3) 盗用 (他人のデータや研究成果等を適切な引用なしで使用)
- 5 研究者は、研究成果の発表に際しては、適切で誤解の無い引用と真摯な表現を心がけなければならない。

(オーサシップ)

第10条 研究者は、研究活動に実質的な関与をし、研究内容に責任を有し、研究成果の創意性に十分な貢献をしたと認められる場合に、適切なオーサシップを認められる。

(研究費の取扱)

第11条 削除

(他の研究者の業績評価)

第12条 研究者が、レフリー、論文査読、審査委員等の委嘱を受けて、他の研究者の業績評価に関わる時は、被評価者に対して予断を持つことなく、評価基準、審査要項等に従い、自己の信念に基づき評価しなければならない。

- 2 研究者は、他の研究者の業績評価に関わり知り得た情報を、不正に利用又は漏洩してはならない。

(皇學館大学の責務)

第13条 本学は、研究者の研究倫理に係る意識を高め、本学における適正な研究活動及び研究費の取扱いを推進するために必要な措置を講じるものとする。

- 2 本学は、研究に関する通報や苦情等の窓口を設ける。窓口は、公益通報窓口とする。
- 3 本学は、外部研究資金の適切な取扱いを確保するため、内部監査を行うこととする。

(規程の改廃)

第14条 この規程の改廃は、教学運営会議、全学教授会の議を経て、理事会が行う。

附 則

この規程は、平成26年5月26日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年3月24日から施行する。